

1. 評価結果概要表

作成日 2008年6月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0871400206
法人名	有限会社 介健
事業所名	グループホーム やまもも
所在地	茨城県高萩市安良川1843 (電話) 0293-24-1717

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年6月16日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成20年6月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	315 円
	夕食	420 円	おやつ	210 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月2日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.3 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やすらぎの丘温泉病院・高萩それいゆ病院・介護老人保健施設ノア・茂又歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の高台にある民家を改修した1ユニット9名を収容するホームとなっている。庭にはホームの名前の由来となるやまももの木が周囲を囲み庭には家庭菜園など季節を肌で感じる温かみのある空間となっている。もともと経営者の両親が住んでいた住宅を改装し民家としての機能を損なわず、かつ利用者が苦痛を感じることなく適度なバリアフリーとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み、同業者を通じた交流などの点に対して改善点とされていた。その各項目に対し積極的に取り組まれ推進会議の活性化および同業者との交流する機会を設け職員だけではなく、利用者同士の交流も行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に自己評価項目に全体で取り組み、話し合いを持ちケアの向上と統一化を図る努力が強く見られた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域住民、行政、家族、職員参加のもと行われ、行事や地域の密着に関する議案など多くの項目を議論し地域に開かれたホームづくりに役立っている。今後は、ホームの運営や理念の浸透を図りさらなる地域への密着に努力されたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見は、家族から直接聞き入れその内容について、職員全体で改善に向けた話し合いを持ち早急に対応する工夫が見られ管理者をはじめ職員のホーム改善への姿勢が非常に強く感じられた。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は、ホーム理念に開設当初から掲げられ、地域に密着した運営のあり方は非常に強く、その強固な地域との連携は地域住民の自然な配慮や見守りから伺うことが出来た。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を掲げホーム開設当初からその理念をもとにケアの提供を行っている。特に地域との交流に関しては非常に努力され地域との密着したケアが利用者の安全を確保している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の思いを大切にし利用者の現存機能を維持する姿勢は、管理者を筆頭に職員間でも正しく共有理解された理念の下、提供されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街の自治会に参加し、自治会の会合に積極的に参加し意見の交換を行っている。その地道な努力が地域で利用者の安全を確保し、認知症高齢者が安全に外出できる雰囲気を作っていると感じた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が作成した評価項目の取り組みに対し、全員で会議を持ち検討を丁寧に行っている。改善点や理念を職員に伝へホームの改善と成長に全体で取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、サービス内容や外部評価の改善点を議題とし、地域住民から積極的に意見を受け入れている。今後はこの推進会議を利用し運営に関する事項などの議案についても積極的に話し合いを持つことが望ましいと感じた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの連絡や市職員の来訪、ホームからの行政への働きかけなど行政との連携を密に保つ努力が見られる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や状態の報告に電話連絡など、利用者の変化に応じた連絡方法で家族の不安の軽減に努めている。	○	家族との連絡は、電話、手紙など利用者個人の報告の他、ホーム全体の報告など定期的な家族への報告に工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などの意見は面会など直接家族から聞き取るなどし苦情や不満などのある場合は早急に職員全体で取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤者での移動は無いが、パートなどの職員の退職などがあったが短期間での退職であったため利用者への影響は無かった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設け、研修時は日勤扱いとし交通費の支給も確保され、職員が無理なく研修に参加できるような体制を整えており、報告会なども積極的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の協議会を発足し定期的に意見交換を行うほか、職員同士の交流、利用者同士の交流など積極的に行い、同業者のとの連携を強固に保っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、体験入居期間を設け利用者、家族が納得した上で入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや畑仕事など利用者から教えてもらう場面を作り一方の立場におかず支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスで本人の意向を確認している。食事作りなど毎日の生活中で常に利用者の意向を聞いている。		思いや意向の把握にアセスメント、生活歴などをさらに活用し利用者の個人に沿った思いの把握に今後も工夫されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全体の係るカンファレンスを基に計画を作成している。	○	職員全体でカンファレンスを行い、ケアプラン作成に努力されている。今後は、家族の意見も積極的に受け入れ更なる質の高いケアプラン作成に努力されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンス以外に、状態に応じて見直しを行っている。また、実施評価の欄を設けて評価実施に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望に応じて宿泊なども可能になっている。また地域に開かれたホームは地域住民の立ち寄り場所ともなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者馴染みのかかりつけ医を継続し、受診は職員付き添いのもと安全に通院介助が行われている。連携医療機関は24時間受診可能になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が密になった場合または長期間の入院治療が必要になった利用者に対して医療施設へ移動してもらうよう家族との話し合いが持たれている。	○	今後、利用者の更なる高齢化などに対し終末期ケアへの家族との綿密な話し合いや、同意書などの検討を考慮されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物などは、鍵のかかる書庫に保存し面会の家族など簡単に目のつくところに保管していない。また利用者に対しても言葉かけなどでプライバシーを損ねないように考慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務優先のケアの提供を行わないよう職員全体で意思を統一しケアを提供している。また夜間希望する利用者には晩酌などの提供も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の利用者は、割烹着を着用し3食全てに利用者が携われるよう工夫し、食事も職員と利用者が同じテーブルで適度な会話の中食事を楽しむ援助が提供されている。また冷蔵庫の中身でその日のメニューが決まるなど食への配慮は、非常に家庭的と感じた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方4時ごろからの入浴が目安となっているが、利用者の希望により午前中などにも入浴が可能になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性の利用者には、家事を中心とした役割、男性の利用者には力仕事や畑、巣箱の餌やりなど利用者の状況や状態に応じた役割の提供がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出支援が行われている。随時外出が設けられ予定ではなく利用者の希望に応じて外出が出来るよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフの見守りのほか、近隣住民の注意や見守りなどの協力もあり、ホームは施錠せず、利用者も自由に入りが可能になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練の実施、利用者を変えた訓練も行われている。	○	今後は、大規模災害に応じた備蓄品の確保や職員全体で広域避難場所の再確認など避難に対する意識の再確認などに配慮されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は、個人記録に詳細に記載され利用者の個人の摂取量の把握が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手な飾りや、配色が無くごく自然な雰囲気のある共有空間が提供されている。また照明は明るすぎずのんびりとしたほっとできる空間が提供されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者個々で広さや床の造りが違う個性的な居室が提供され、利用者の馴染みの空間となっておりかつ清潔に保たれている。		